

平成 2 8 年度中学入試

[前期 B 入試]

国語科 問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、表紙を含めて 20 ページあります。

試験中に、印刷がはっきりしなかったり、ページの乱れや抜け落ちに気づいたりした場合は、手を上げて監督者に知らせなさい。
3. 解答用紙は別に配布されます。解答はすべてその解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は下書きなどに利用してよろしいが、どのページも切り離してはいけません。

[前期 B 入試] 受験番号 _____

金蘭千里中学校

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

西欧社会では、レトリックは二五〇〇年の歴史をもちます。a **キゲンゼン**からの伝統で、ソクラテス、プラトン、アリストテレスたちが活躍した古代ギリシア時代から続くものです。ふつうレトリックというとき、この西洋のレトリックを指します。

では、レトリックとは何を意味し、何を目的としたのでしょうか。

当時のギリシアは、「共和制」という いちおう民主的な政治体制がしかれていました。いちおうというのは、奴隷制の上ののつかった共和制だったからです。ですから完全な民主主義ではありません。でも、奴隷ではない市民には言論の自由がありました。そして、市民の代表は、自由に意見を述べることができて、議場での議論とその結果によって重要な方針が決まりました。そこでは、いかに「よく話す」かが当然大きな意味をもつでしょう。

レトリックは、議場や裁判の場で、「よく話す」方法として開発され、それがしだいに体系化されていったものです。「よく話す」の「よく」とは、「説得力をもって」という意味です。つまり、レトリックとは「説得術」を意味したのです。腕力で人を負かすのではなく、ことばで人を説き伏せる、これがレトリックでした。きわめて実践的な意味をもっていました。

奪われたものは、取り返さなければなりません。「**【**には**【**」を」という力の行使ではなく、また、ただ泣き**【**」入りするでもなく、出るところに出て正々堂々と自分の言い分を述べるのです。あるいは、不当な訴えや無実の罪に対して、自分を守るために弁護をします。さらには、何が正義で何が悪かを大勢の人を前にして演説するので。そのとき、このなりゆきを左右したのは、「よく話す」ことでした。

しかし、説得術というと、悪くいえばだましのテクニクのように受けとられるかもしれません。もちろん、当時も、白を黒と言いくるめるような詭弁としてのレトリックもなかったわけではありません。だけど、それは、本物のレトリックそのものが力をもっていた証拠です。効果的だったからこそ、悪用もされたのです。説得術の術とは、技術を意味しました。つまり、体系だった方法のことです。

レトリックは、古代の哲学者のアリストテレスが『弁論術』で書いているように、どのようなテーマに対しても応用できる一般的な技術体系でした。ですから、**【**利**【**」欲のために悪用する者もいました。たしかにレトリックならぬ **トリック**として用いる者もいました。また、近年にいたっても、国民を大規模な戦争に向かわせる政治レトリックにも

応用されました。この意味で、レトリックは両刃の剣です。説得力が悪い方向に暴走しないように、知性による見張りが必要なのです。

いまレトリックの説得面を見ましたが、レトリックにはもうひとつ大切な面があります。表現そのものの魅力です。レトリックといえ、むしろこちらの方を先に思い浮かべる人が多いかもしれません。というのも、日本では説得術としてのレトリックは体系化されることはなく、もっぱら表現美を追求するレトリックに**シユウシ**したからです。つまり、ことばの「**レ**」に対する強い興味が中心でした。

ですから、日本のレトリックは、弁論術でも説得術でもなく、おもに詩歌を対象とした修辞学でした。ふつうの、並の、**c** **ヒョウジュン** 的な、中立的な表現に少し手を加えて、魅力的な表現を生む。こちらが中心でした。

このレトリックは、悪口の対象になりやすいという弱みがあります。ことばを飾り立てるばかりで、実質的な内容が乏しいという批判です。とりわけ、現代のように、社会の中で文学のもつ力が落ちていく時代では、内容さえ伝わればそれでいいという**d** **フウチヨウ** がいつそう強まるでしょう。

たしかにパソコンやケータイで伝えたい内容がやりとりされる社会では、必要なのは正しい情報とスピードでしょう。さらに、多くのデータから必要な情報のみをすばやく取り出す能力でしょう。情報に装飾をほどこすことなど、どちらでもいいというよりも、**e** **ヨケイ** なことのようにです。さっさと言いたいことを言って、要するになんなの、という気持ちが先走ります。

しかし、魅力的な表現を求めるレトリックは、少し別なところに力点をおいています。つまり、魅力は、美文や装飾に直結するのではなく、「より適切な表現」を求めるからです。より適切な表現には、美しい表現も含まれるでしょう。でも、それだけではありません。ある表現がより適切になるには、文脈をよく考慮して、伝えたい意味が過不足なく表されていないなくてはなりません。

そのためには、表現方法としての言語素材をよく知ることです。ことばにはどんなしかけが用意されていて、どれだけの潜在的な活力があるのかを知ることです。この点を明らかにするのが、レトリックのもうひとつの仕事なのです。そして、レトリックのこの面は、第一の面と矛盾しません。より適切な表現は、説得力と結びつくからです。この点は、広告コピーなどによく現れるでしょう。

こう考えれば、広い意味でのレトリックは次のように定義できます。

レトリックとは、あらゆる話題に対して【 技術体系である。

ここまで説得という表現が何度かできてきました。レトリックを考えるうえで重要なことばです。説得の意味をさらに知るには、論証との違いを知っておくのがいいでしょう。論証できるところでは、説得は無用だからです。たとえば、「三角形の内角の和は二直角である」は、数学的に論証（証明）できます。魅力的な言い回しは不要で、最短距離を進めばいいのです。説得が必要なのは、【 場合です。つまり、一〇〇パーセントの確証がえられないときです。

説得とペアになるのが得です。あなたは説得しようとしています。説得がうまくゆけば、相手は得します。この得は、考えると不思議なのですが、必ずしも論証や証明によって得られるとは限りません。むしろ、「ああなるほど」と思ったときに得するのです。頭だけでわかるのでは不十分で、「腑に落ちる」といういわば体での理解が必要となるのです。

ですから、いま説得が必要なは一〇〇パーセントの確証がえられないときだと述べましたが、ときには、疑いの余地のない真実であつても、よくことばを尽くさないと人に伝わらないことがあります。真実が真実であるということを、説得力をもって語らなければならぬのです。「なんでこんなことがわかってもらえないんだ」と悔しい思いをしたことはありませんか。たとえ真実であつても、ことば不足の場合は、ことば巧みな不実に破れてしまいかねません。

また、人数の多さに押し切られて、自分で正しいと思つた考えが通らなかつたことはなかつたですか。「多勢に無勢」という状況です。そのようなとき、立ち上がって、自分の主張を述べるのは勇気のいることです。ふたたび破れるかもしれない。いつそう孤立するかもしれない。そのとき、唯一たよりになるのは、ことばです。よく選ばれたことば、よく組み立てられたことば、これがほとんどすべてです。

(瀬戸賢一『日本語のレトリック』より。一部改めたところがある)

(一) 囲み文字 a e のカタカナを漢字に直したとき、波線部が同じ漢字になるものを、それぞれア e の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

a	キゲンゼン	ア	ニツキをつける	イ	キコウブンを読む	ウ	一ガツキの成績	エ	キセツのめぐり
b	シユウシ	ア	算数をナラう	イ	学問をオサめる	ウ	切手をアツめる	エ	夏休みがオわる
c	ヒヨウジュン	ア	星のヒヨウメン	イ	選挙のカイヒョウ	ウ	山のヒヨウコウ	エ	成績のヒヨウカ
d	フウチヨウ	ア	シオの満ち引き	イ	弓をハる	ウ	辞書でシラべる	エ	山のイタダキ
e	ヨケイ	ア	席のヨヤク	イ	ノートのヨハク	ウ	銀行のヨキン	エ	ヨナカの電話

(二) 傍線部 「いちおう民主的な政治体制」とあるが、その内容の説明としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 言論によって話し合いの場が作られていたものの、議場で出た結論が無視されてしまうこともあった。

イ 奴隷という低い地位の人たちがいたものの、その地位の差をこえて「言論の自由」が広く認められていた。

ウ 地位の差があつて、意見を述べられない人々もいたものの、政治の方向性は市民の意見で決められていた。

エ 市民全員がレトリックをうまく使えたわけではなかったものの、言論によって重要な方針を決めていた。

オ 奴隷には言論の自由が認められなかったものの、政治の取り決めは裁判での議論で公平に行われていた。

(三) 傍線部 「よく話す」とあるが、ここでいう「よく話す」とはどういうことか。その説明としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 奪われたものを取り返すように説得すること。

イ 自分の話した内容が忘れられないように話すこと。

ウ 美しいことばを並べて、聞き手を感動させること。

エ 短い時間の中でたくさんの情報を伝えること。

オ 相手が分かるように、上手に話すこと。

(四) 空欄「くうらん」には、体の一部を表す同じことばが入る。どんなことばが入るか、解答欄に書きなさい(ひらがなで書いてもよい)。

(五) 空欄「 」について、漢字またはひらがな一字を補って、「不服がありながらしかたなくあきらめること」という意味のことばを完成させなさい。

(六) 空欄「 」には同じ漢字が入る。ふさわしい一字の漢字を解答欄に書きなさい。

(七) 傍線部 「トリック」とあるが、同じことを表している九字の表現を、本文から抜き出しなさい。

(八) 傍線部 「この意味で、レトリックは両刃の剣です」とあるが、これはどういうことか。その説明としてもっとも適切なものを次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 色々な人の気持ちを思い通りに動かせるので、とても役立つものであるということ。

イ どんなことにも応用できるだけに、良いことにも悪いことにも使えてしまうということ。

ウ 政治の場面でもよく使われることがあるので、たくさんの人に影響を与えるということ。

工 戦争に利用されることすらあるので、レトリックはなくなった方がいいということ。
オ アリストテレスがレトリックを悪用したのならう人が出てくるかもしれないということ。

(九)「ことばの【 】」が「レトリック」とほぼ同じ意味になるように、空欄【 】にひらがな二字の言葉を補いなさい。

(十) 傍線部「悪口」とあるが、

A 「悪口」の内容を説明したものとしてみてもっとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 大事なことが伝わりさえすればいいという感じで、つまらない。

イ 難しく、分かりづらい表現になるだけで、迷惑だ。

ウ 説得力を悪用して、人間をあやまった方向に導く。

エ うわべだけ派手な表現になるだけで、内容がない。

オ 中立的な表現ばかりを並べるだけで、魅力がない。

B 筆者はこの「悪口」に対して、どのように考えているか。その説明としてみっとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 情報のやりとりの方法が変わってしまったため、「伝達の早さと正確さが重要だ」という間違った考えを持つようになった人たちが「悪口」を言っているに過ぎないので、まずはその考え方を変えるべきだと思っている。

イ 時代の流れを考えれば、こうした「悪口」を言う人が増える事情があるのは想像できるが、レトリックを用いることは、実は「悪口」を言う人たちの、ことばについての希望を満たすことにもつながると考えている。

ウ 文学が軽く見られる時代になってしまったので、こうした「悪口」を言う人は増える一方になることが予想されるので、これからは伝えたい意味を過不足なく伝えるレトリックだけを選んで使うべきだと考えている。

エ 現代の傾向を考えれば、こうした「悪口」を言いたくなるのも理解はできるが、本当はレトリックというのは、ことばの魅力を追求するものではないので、「悪口」はまったく的外れなものであると思っている。

オ もともとレトリックは「悪口」の対象になりやすいという弱みがあるので、レトリックが本来持っている役割を丁寧に説明し続けることによって、少しずつ「悪口」を言う人を減らしていくしかないと考えている。

(十一) 空欄【 】を補うのにもっとも適切なことばを、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 魅力的なことばで人を説得する

イ 目立つことばでたくさんの人に知らせる

ウ 美しいことばで聞き手をうっとりさせる

エ うそも混ぜたことばで大衆を信じこませる

オ 最小限のことばで相手に理解させる

(十二) 空欄【 】を補うのにもっとも適切なことばを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 論証も必要な イ 論証ができる ウ 論証ができない エ 論証がしたい

(十三) 本文中の は、漢字一字をふせている。二字熟語「得」の読み方を、 の部分を補ってひらがなで答えなさい。

(十四) 本文の内容に合うものを、次のア～キの中から二つ選んで、記号で答えなさい。

ア ギリシアでは、レトリックが使いこなせない者には言論の自由がなかった。

イ レベルの低い、へたなレトリックは悪用されてしまうおそれがある。

ウ 日本では、歴史的にレトリックは無視され続けていた。

エ 広告コピーを見れば、レトリックが見た目の美しさだけを追求したものでないことが分かる。

オ 数学の世界でも、レトリックは大いに活躍している。

カ うそさえつかなければ、人々にそのメッセージは必ず伝わるものである。

キ レトリックを使いこなすことで、少数派の意見を通すこともできるかもしれない。

(十五) 次の表現で、「レトリック」(表現を印象的にするために使われる特別な言葉遣い)が用いられているのは、それぞれAとBのどちらか。AかBの記号で答えなさい。

A こんな卑怯な行いは許されない。 B 許されない、こんな卑怯な行いは。

A 白くてすべすべした肌のお姫様がいる。 B 絹のような肌のお姫様がいる。

A にわかに風の勢いが弱まった。 B 急に風の表情がゆるんだ。

A このワインは、新鮮で明るい味がする。 B このワインは、豊かで濃い味がする。

A 校庭で紅白帽が二人走っている。 B 壁に傘がふたつ立てかけてある。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

父を亡くし、母に捨てられた小学校四年生の耀子は、静岡県天竜川近くの山深い場所で、山林業と養蚕業で富を築いた遠藤家の山の管理をしている祖父に引き取られる。学校でもいじめに遭った耀子は、虚弱体質で学校に通えない遠藤家主の小学校一年生の次男とともに、家庭教師青井先生に勉強を見てもらうことになる。

「昨日……」「注1」佐々木さんが言っていた『やらまいか』ってね……」

耀子が顔を上げると、青井が腕組みをほどいて窓のほうを見た。

「あれは不思議な言葉ね」

「不思議？」

ええ、と青井がうなずき、耀子を見た。

「人を誘う言葉なのに、励ます言葉でもあるみたい。頑張れって意味合いもあるようだし、自分にa **ハッポン**をうながす言葉でもあるようだ」

「ハッポン、ってなんですか？」

似たような言葉を知っている、と青井がつぶやいた。

「けっぱれ、がまだせ……。そして、やらまいか。きつと日本中に似たような方言があるのね。雪が深かったり、都に遠かったり、向かい風が強かったり。そうした場所で生きる人たちは、そうやって自分たちに声をかけて、励まし合いながら一歩、進んで来たのかもね」

「けっぱれ？ がま……？」

がまだせ、と青井が微笑んだ。

「どこの言葉、ですか」

「がまだせは九州、けっぱれは東北。子どもの頃に住んでいたことがある」

「先生は……東京の人じゃないの？」

「生まれは東京だけど、父の仕事の関係で日本中のいろいろな場所をてんてんとしていた。私は耀子ちゃんと少し似ていると

ころがあるの」

A 「私と？」

「親を亡くしてからは、親戚の家で暮らしていた……遠い親戚だね
いじめられたこともある、と青井が言った。」

「アオイウメコって名前でしょう。青いウメには**ドク**があるってからかわれたり、牛乳瓶の底みたいな眼鏡をかけていたから、ピンゾコって呼ばれたり。そのほかにもいろいろ……。学校は奨学金で通っていたのだけど、お金がなくて制服のコートが買えなかったり、眼鏡が壊れても直せなかったり。そんな境遇だから学校でクラスメイトの物が盗まれたとき、疑われたこともある。そんなみつともないことは死んでもやらないって、泣いて怒ったこともね」

B 「先生が？」

ええ、と青井がうなずいた。

不思議な気持ちで耀子は青井を見る。さっき「注2」対の屋でお茶を飲んでいた青井は、「注3」照子と同じくらいに優雅で、そんな生活をしていたようには見えない。

「その頃は毎日思ってた。どうしてこんなことになったの？ どうしてここにいなければならぬの？ 親さえ生きていれば、もっと別の暮らしができたはずなのに、どうして私だけがこうなったの？ 他の子が（）。幸せそうで、何一つ心配のない無邪気な子がうらやましい。どうして、どうして。耀子ちゃんはそう思ったことがない？」
自分の頭のなかを見透かされたようで、耀子は黙りこむ。

「どうかしら？ うずくまっているとき、そんなことを考えたりしない？」

「あのときは何も……。ただ……」

「ただ？」

「寝てると……ぐるぐる、思う……。どうして……」

どうして、と言ったとき、恥ずかしくなって黙った。

青井の（）声が出た。

「なあに？ 続けて」

「どうして……私、グズなの？ どうして、嫌われるの？ どうして、お母さんは……」

私を置いていったの。

そう言おうとしたけれど、言葉が出ない。

「ぐるぐるする……ぐるぐるします。ぐるぐる……どうして、どうしてって」

そうね、と青井が言った。

「耀子ちゃんだけじゃない。私もたまにそうなる。今だって」

先生も？ と聞くと青井がうなずいた。

「でも、ぐるぐる考えても答えは出ないの。どうして、どうしてって思いながら、ずぶずぶと沈んでいくばかり。今の状態を『どうして』って責めても、何も始まらないのよ。だって、もう終わってしまったことだから。わかっているけれど抜けられない。そんなときには、そこから抜け出す魔法があるの」

魔法？ と青井を見上げたら、真剣な顔をしていた。

「そう、今を変える 魔法の言葉。これが今年最後の私の授業」

C 「何？ なんです？ 何？」

「どうして、って思いそうになったら、どうしたらって言い換えるの」

D 「そんだけ？」

そう、と青井が答えた。

「ア グズなの？ この質問に答えは出ない。だけど、イ グズではなくなるの？ この質問には考えれば答えが出る。たとえば……何かをする前に、あらかじめ準備をしておくとか。手順を書いて練習してみるとか。答えが浮かばなかったら誰かに相談してもいい」

「相談……」

人に聞くのは（ ）？ と青井がたずねた。うなずくと、「そうね」と優しい声が出た。

「恥ずかしいかもしれない。でもね、ウ 私はグズなんですよと人に聞いても、おそらく誰も答えられない。だけど、

エ 私はグズでなくなるのでしょうか、と聞いたら、**シンミ**になって一緒に考えてくれる人がいるかもしれない」

オ 嫌われるの、と青井がつぶやいて立ち上がり、窓にもたれた。

「そうじゃない。そう思いそうになったら……」

「カ 『きらわれなくなるの？』」

そう、と青井がうなずいた。

「それに慣れたら今度は暗い言葉を前向きな言葉に言い換えるの。攻めるのよ。一步前に踏み出すの。どうしたら嫌われなくなる、ではなく、どうしたら好きになってもらえるの？　というふうに。それで言えば、どうしたらグズでなくなるの？　は」

E 「どうしたらチャカチャカやれるの？」

「チャカチャカって（　）わね。でも『手早くやれるの？』のほうが、わかりやすいかもしれないわ」
簡単そうでしょう、と青井が言った。

「でもdイガイに難しいの。どうしたら、って考えるのには体力や気力があるから。とてもそんな気分になれないことだつて、いっぱいあるものね。』どうして』お母さんは私を置いていったの？　それを』どうしたら』お母さんは私を置いていなかったの？　そう考えるのはあまりに辛すぎる」

「だけど……、と、青井が顔を伏せた。

「『キ　』と自分を責めない。』ク　』と前に進もうとする。やっぱりそれが今を変える魔法の言葉。そうやって私はなんとかやってきた。奨学金で進学して、また奨学金で留学して。勉強、勉強、勉強。それが良かったのかどうか、わからない。だけど、どうして、どうしてって嘆き続ける人生より、どうしたら、どうしたらって、必死でもがいて戦う人生が私はいい。どうする？　耀子ちゃん。あなたはどっちを選ぶの？」

えっ、と言ったきり、耀子は黙る。

即答できる話じゃないわね、と青井が言った。

「少し、熱くなっちゃったわ……」

F 「窓、開ける？　開けますか？」

青井が微笑み、首を横に振った。それから勉強は好きかとたずねた。

G 「わかんない。けど……ここで勉強するのは好き……です」
それは良かった、と青井が微笑んだ。

「親の後ろ盾や資産、そういうものを持っていない子が自由に生きていくには武器がいるの」

H 「武器？」

「誰にも負けないもの、ずうっとやっても苦にならないもの。料理が好きとか、お裁縫が好きとか、計算がeトクイとか。そういうものでいい。それを見つけたら、大事に磨いて武器にすれば生きていきやすい」

I 「私、なんにもない」

「じゃあ、それが見つかるまで、こつこつ勉強をするのは大事なこと。勉強というのは、自分の武器を見つげるためのfシ」

「でも私、バカだし」

「耀子ちゃんはバカじゃない、と力強い声が出た。」

「グズでもない」

「青井が手を伸ばして、耀子の両手を取った。」

「そんな言葉は何も生み出さない。人の心を砕くだけ」

「青井に握られた両手が、軽くゆすられた。」

(中略)

「この世の中は 理不尽なことだらけ、と 小さな声が出た。」

「子どもは特に大人の事情に振り回されてしまう。何もしていないのに疎まれたり遠ざけられたり……」
時計から手を離すと、青井が両手で耀子の手を取った。

「耀子ちゃん」

「自分の力を信じて、と 強い声が出た。」

「理不尽を、乗り越えるのよ」

(伊吹有喜『なでし子物語』より。一部改めたところがある)

「注1」佐々木さん……遠藤家の運転手。

「注2」対の屋……敷地内の中心となる建物とは別棟の建物で、照子の住居。

「注3」照子……遠藤家当主の長男の嫁。

(一) 囲み文字 a f のカタカナを漢字に直しなさい。

- a ハップン
- b ドク
- c シンミ
- d イガイ
- e トクイ
- f シュダン

(二) 空欄 に入る言葉を、次のア～オの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 相手の欠点を見つけて攻撃しようと思うこと

イ 他人に負けないようにと決心すること

ウ 心を前向きにしてすべて解決しようとする事

エ 他人に責任を押し付けたいと自分に誓うこと

オ 力を出せ、力を尽くせと自分に言うこと

(三) 傍線部 「不思議な気持ちで耀子は青井を見る」とあるが、それはなぜか。もっとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア ふだんの青井先生はとても洗練されていて、昔お金の苦労をしたことが信じられなかったから。

イ ふだんの青井先生はとても上品で、昔ビンゾコ眼鏡をかけていたなんて信じられなかったから。

ウ ふだんの青井先生はとても厳しく、昔からかわれていたことなど信じられなかったから。

エ ふだんの青井先生はとても穏やかで、昔盗みの疑いに泣いて怒ったなど信じられなかったから。

オ ふだんの青井先生はとても近寄りが大きく、昔の自分の話をしてくれるなど思わなかったから。

(四) 傍線部 「ぐるぐるする」はどのような意味か。もっとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 答えを見つけようとあたりを歩きまわること。

イ 答えを見つけられないまま同じことを考え続けること。

ウ 答えを見つけられずに黙りこんでしまうこと。

エ 答えを見つけようとひたすらあせってしまうこと。

オ 答えを見つけれらるまで何通りも考え方を替えること。

(五) 傍線部 「魔法の言葉」とあるが、なぜそう言えるのか。もっとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア つらい状況が突然助けしてくれる人の存在で変化するから。

イ 体力や気力が不足していたことに急に気がつくから。

ウ 解決できないと思っていたのに突然答えが見つかるから。

工 暗い言葉の中にも明るい部分があると突然理解できたから。
オ 抜け出す方法を考えていた時に急にひらめいた言葉だから。

(六) 傍線部 「そう考えるのはあまりに辛^{つら}すぎる」とあるが、それはなぜか。もっとも適切なものを、次のア～オの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 置いていかれた当時のことがよみがえるから。

イ 責任をお母さんに押し付けることになるから。

ウ お母さんの愛情を疑うことになるから。

エ 責任が自分にあると考えることになるから。

オ 自分もお母さんも傷付けることになるから。

(七) 傍線部 「必死でもがいて戦^{たたか}う」を、一語の動詞で表している部分がある。三字で抜き出しなさい。

(八) 傍線部 「理^り不尽^{ふじん}なこと」について、

「理不尽なこと」の意味として正しいものはどれか。次のア～オの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 理解するには無理があること。

イ 道理に合わないこと。

ウ 理想からはほど遠いこと。

エ 理性的ではないこと。

オ 理由が推測できないこと。

青井先生が「理不尽なこと」だと考えていることを次のア～オの中から三つ選んで記号で答えなさい。

ア 雪が深かったり、都に遠かったりする場所で生きる人たちがいること。

イ 自分が昔貧しくて制服のコートが買えなかったこと。

ウ 自分の頭の中を見透かされたようで耀子が黙ったこと。

エ 耀子が何も悪くないのに母親から置き去りにされたこと。

オ 耀子が自分の力を信じられずに今の状態から抜け出せないこと。

(九) 空欄 にはこの土地の方言が入る。ふさわしい言葉を本文から抜き出しなさい。

(十) 二重傍線部 A～J の耀子の会話の中から、

相手の会話の内容を明らかに取り違えた受け答えになっているものが一つある。ふさわしいものを A～J の記号で答えなさい。

日ごろ青井先生から言葉遣いを注意されていることがわかる会話が三つある。ふさわしいものを A～J の記号で答えなさい。

(十一) () () () には次のどの言葉がふさわしいか。ふさわしいものをそれぞれ A～キの中から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア たやすい イ やさしい ウ かわいい エ はずかしい
オ ねたましい カ 意地悪い キ 心細い

(十二) ア ク には、A、どうして B、どうしたら のどちらかが入る。ふさわしいものを A・B の記号で答えなさい。

(十三) 波線部 「力強い声」・ 「小さな声」・ 「強い声」の説明として、もっとも適切なものを、次の A～オの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア は自信のなさをしかる意味があり、 は自分にもそれを解決できない心の痛みのためであり、 は相手を励ます意味がある。

イ は同意できないということを強く伝え、 は自分の答えに自信がないためであり、 は再び自信を取り戻したためである。

ウ は相手を強くしかる意味で、 にはこっさり秘密めいた意味が込められ、 には相手を励ます気持ちが込められている。

エ との時には、自分の答えに自信があるが、 には自信がなく、他人には聞かれたくない気持ちがあらわれている。

オ との時は、すぐに理解できる内容だが、 は内容が複雑なので相手がすっかり聞いてくれるようにわざと変化を付けている。

【問題は以上で終わりです】

(一)	a		b		c		d		e	
(二)		(三)								
(四)			(五)		(六)					
(七)									(八)	
(九)			(十)	A		B				
(十一)		(十二)		(十三)				(十四)		
(十五)										

(一)	a		b		c		d		e		f					
(二)																
(三)																
(四)		(五)		(六)												
(七)			(八)					(九)								
(十)																
(十一)																
(十二)	ア		イ		ウ		エ		オ		カ		キ		ク	
(十三)																

得点	受験番号

- (一) a イ b エ c ウ d ア e イ 2点×5
 (二) ウ 3点 (三) オ 4点
 (四) 目(め) 2点 (五) 寝(ね) 2点 (六) 私 2点
 (七) だましのテクニク 4点
 (八) イ 4点 (九) あや 2点 (十) A エ 3点 B イ 4点
 (十一) ア 4点 (十二) ウ 3点 (十三) なつとく 2点 (十四) エ・キ 3点×2
 (十五) B B B A A 完答で5点 4つで3点

- (一) a 発奮 b 毒 c 親身 d 意外 e 得意 f 手段 1点×6
 (二) オ 2点 (三) ア 4点 (四) イ 2点 (五) ウ 2点 (六) エ 2点 (七) 攻める 2点
 (八) イ 2点 ア、イ、エ 2点×3 (九) やらまいか 4点
 (十) F C、F、G 4点×2
 (十一) オ イ エ ウ 2点×4
 (十二) A イ B ウ A エ B オ A カ B キ A ク B 1点×8
 (十三) ア 4点